

2015 新年のご挨拶

2014年もあわただしく駆け抜けた1年だったような気がします。大幅に進捗した円安、原油安、株高などを背景に景気回復に向けて離陸するかに見えた日本経済も、4月の消費増税以降はあえなく失速。年末には今後の経済運営を問う衆議院総選挙を経て、新たな成長戦略に挑む2015年に突入しました。個人消費の行方に不安はあるものの、IoT機器やAutomotive関連など、日本の半導体・エレクトロニクス業界が持つ高度な技術とソリューションを戦略的に投入できるマーケットは世界規模で進展しており、お客様各社の技術開発、製品マーケティングへの取り組みは、まさにこれからが正念場になると考えています。そうしたお客様のチャレンジを強力にバックアップするため、シノプシスは昨年数々の新しい設計技術を世に送り出しました。

Core-EDAテクノロジーでは、“Game-Changing” Newテクノロジーを発表しました。

IC Compiler IIがそのひとつです。複数のCPUやGPU、複雑なプロトコルが複合的に組み込まれるのが当たり前になってきたSoCの設計は、これまで以上に困難な作業となります。IC Compiler IIは、他社には真似のできない高度な専門知識を持った膨大な数の開発陣と幅広いパートナーシップを駆使し、数年間にわたる開発期間をかけて一から再構築した最先端テクノロジーの塊であり、既に多くのお客様でこれを活用したテープアウトが実現されています。IC Compiler IIは、まさに“異次元”の次世代ツールとしてシノプシスが自信を持って送り出したインプリメンテーション・ソリューションです。

SoCの高度化は、当然、検証作業の複雑化ももたらします。この問題に対処するためには、これまでのようなポイント・ツールの寄せ集めソリューションでは限界が来ます。一貫性のあるコンパイル・エンジンとデバッグ環境に、業界最高水準の強力な各種検証エンジン（シミュレーション、スタティック・フォーマル検証、VIPなど）を統合した検証プラットフォームが不可欠となります。それを実現したのがVerification Compilerです。そして更にこのVerification Compilerに、実績豊富な仮想プロトタイピング・ツールVirtualizer、業界最高の速度と容量を誇るエミュレータZeBu Server-3、性能と使い勝手を大幅に向上させたFPGAベース・ハードウェア・プロトタイピング・システムHAPSを統合したVerification Continuumもご提供を開始しました。これにより、ソフトウェア・ツール・ベースの検証のみならず、ハードウェア・ベースの高速検証エンジンも駆使した統合検証環境をご活用いただけるようになりました。

さらに、忘れてはならないのが、SoCハードウェアの複雑化に伴ってボリュームと複雑度が指数関数的に激増しているソフトウェア開発の問題です。シノプシスは、ソフトウェアの静的検証ソリューション・プロバイダとして定評のあるCoverity社を昨年2月に買収いたしました。Coverityツールは、ソフトウェア・テスト、品質/セキュリティの向上に大きな効果を発揮します。昨年中に組織的にも実質的な統合作業を完了し、今後本格的にソフトウェア開発ソリューションのご提供に取り組んでまいります。

日本の半導体・エレクトロニクス業界の発展のため、シノプシスは、皆様のキー・パートナーとしてお役に立てるよう、今年も全社を挙げて頑張ります。本年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本シノプシス合同会社
社長 藤井 公雄